



令和6年4月30日  
5月号 No.459  
発行責任者  
校長 西村 学徳  
所在地 福生市熊川623

## よい学びを支える基本を大切に！

校長 西村 学徳

若葉が鮮やかで、心地よく過ごしやすい季節となりました。先日の全校保護者会には、ご多用中にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご参会をいただき、誠にありがとうございました。

新年度がスタートして、早いもので1か月が経とうとしています。子どもたちは新しい学年・学級にも随分と慣れてきたようで、笑顔で学校生活を送っている姿があちらこちらで見られています。朝は、東門のところまで立っている私に「校長先生、おはようございます！」と気持ちのよい挨拶をしてくれる子どもたくさんいて、子どもたちから元気ももらっている毎日です。

授業中の様子を見て回ると、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいる様子が見られています。目を輝かせて生き生きと学んでいる子どもたちを見ていると、この1年間の子どもの成長を期待せずにはいられません。同時に、学校全体で学習指導をより充実させていくことへの責任も強く感じています。

4月の全校朝会では、よい学びを支えるために大切なことを2つ、子どもたちに紹介をしました。1つ目は、「よい姿勢」について、2つ目は、「正しい鉛筆の持ち方」についてです。この2つは、どちらも第1学年の「書写」の教科書の冒頭に紹介されているものです。つまり、それだけ、基本中の基本とも言える内容であり、大切にすべき内容であると言えます。また、この2つは、「ふっさっ子スタンダード（学び方）」の10つある項目のうちの2つでもあります。「ふっさっ子スタンダード」とは、福生市教育委員会が、児童の望ましい学習習慣や生活習慣の定着を目指して、平成27年3月に策定したものです。この間、学習指導要領の改訂やコロナ禍、一人1台の学習用iPadの貸与等、子どもたちの学習環境は大きく変わりました。それに伴い、令和3年に児童・生徒、教職員、PTA等からも意見を募り、内容の見直しが行われ、現在の内容となっています。各教室には「ふっさっ子スタンダード」の大きなポスターが掲示され、子どもたちが常に意識できるようにしてあります。時代と共に生活様式や学習環境も変わりますが、私は、いつの時もよい学びを支える基本となるものは、多少の変化があっても、その本質的なものは大きく変わらないと考えています。先述の2つ以外にも、話をよく聞くこと、丁寧に学習に取り組むこと、文房具を大切に扱うこと等々。「ふっさっ子スタンダード」には、よい学びを支えるものがしっかりと示されています。年度の初めの今だからこそ、基本中の基本をより大切にし、今後、子どもたちが力を一層伸ばせるように指導していきます。

この1か月、目いっぱい努力してきた子どもたちです。楽しいゴールデンウィークを過ごし、リフレッシュして、連休明けにまた元気に登校してほしいと思います。